

## 私の留学体験記

広島県立安芸府中高等学校 2年 宮本洗亜(みやもと こうあ)

留学期間令和5年2月25日～令和5年3月10日(14日間)

留学先 Maryknoll School (ハワイ(都市名)、アメリカ(国・地域名))

不安、怖い、帰りたいという気持ちが表れないか心配。という気持ちでいっぱいであった渡米前の私は、楽しむという大切なことを忘れていた。今回の留学を通して気づかされたことは、慣れの大切さである。約7時間のフライト後に待ち受けていたのは、雄大な眺望。これから始まる生活に、不安と楽しみを同時に抱きながらのホストファミリーとの対面。すべてが私にとって刺激的であった。いっぱい英語を話そう、たくさんコミュニケーションを取ろう、というのが初日の私の記憶である。自分の部屋の外から聞こえてくる理解できない会話は、より一層私の感情を不安にさせた。ハワイの気温が暑いと感じるようになっていた頃には、先ほどの生活にはすでに慣れていて、現地の高校生との会話は私を楽しませてくれ、英語で会話していることに違和感がないほど私は会話に夢中になり楽しんでいて、このような生活は自分自身を勇気づけた。ワイキキエリアを現地の高校生と遊んだときは、楽しむことに夢中であった。だから英語を話すことは苦痛でなく、むしろ楽しんでいて、伝わった時の嬉しさを毎回感じながら私の英語は成長していると受け取ることができた。そして、英語はあくまでもコミュニケーションを取るための一つの技であり、英語が話せることがすべてではないことも、うまく話せなかった自分自身が感じていた。そう感じることもできたのにも理由があると私は思う。この生活に慣れていなかった時期には、私は自分の失敗を受けとめることに精一杯であり、他の原因を考える余裕すらなかった。英語だけで伝えなくても自分の感情は伝えることができる。表情や行動を伝えるのに、言語は必要ない。だから、英語だけで会話をする必要はない。英語で会話することに慣れてしまえば、あとは楽しむだけである。楽しみながら学ぶことは苦痛ではない、ということが今回の体験からわかった。自分がどのような理想を描き、どこまで現実を理想に近づけたいかは、毎日の自分の行動次第である。心配しすぎていることはかえって自分を不安にさせる。心配を無くそうとするよりもどのように楽しむかを見つけたほうが良いと思う。帰国してから後悔しないためにも、今を全力で楽しむことはとても大切である。これは留学だけでなく毎日の日常生活にも関係しているはずだ。あとから後悔しないために今全力ですべてのことへ力を注ぎ、後から見たときに自分を褒めること、満足できるほどの努力をしたいと思う。帰国が近くなるにつれて寂しが増していく頃には、ハワイに来る前の心配事は消えていた。最後の夜にはあつという間に過ぎた日々を振り返り、迷うなら行動したほうが良い、という担任の先生の言葉を借りこの留学に参加して良かったと、嬉しい気持ちでいっぱいだった。飛行機から最後に見えたあの雄大な眺望は、すべての思い出を蘇らせた。